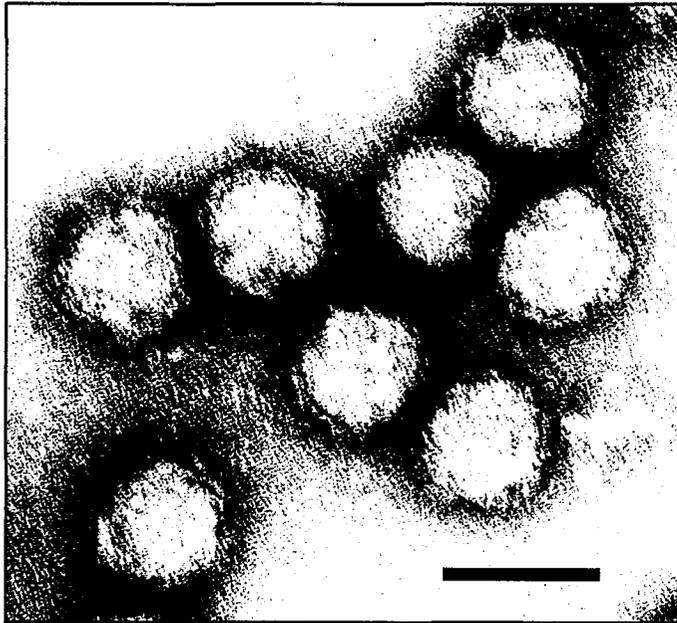


—チクングニヤ熱について—

国立感染症研究所 副所長
倉根一郎

チクングニヤウイルス



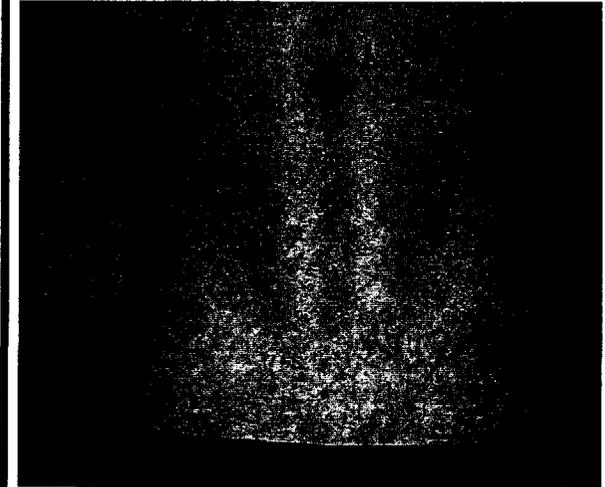
CHIK-SL10571株の電子顕微鏡像

MAG 25K
Bar 100nm

- チクングニヤ熱は1952-53年にアフリカのタンザニアで初めて報告された.
- トガウイルス科(*Togaviridae*)、アルファウイルス属(*Alphavirus*)、セムリキ森林熱ウイルス血清型群に分類される.
- エンベロープを有す球状の一本鎖(+)RNAウイルスである.
- **Central/East African, Asian , West African** の3つの遺伝子型に分類される.

チクングニヤウイルスの症状

- ヒトにおける潜伏期間は2-12日で多くは不顕性感染に終わる.
- 発熱, 全身倦怠, リンパ節腫脹, 浮腫, 頭痛, 筋肉痛, 一過性の発疹, 亜急性の関節炎を呈する.
- 出血傾向(鼻出血・歯肉出血)や悪心・嘔吐をきたすこともある.
- 関節炎は特に指関節, 手根関節, 趾関節, 足関節に多発する.
- 関節痛が数日から数ヶ月持続する場合, 激しい関節痛および多発性腱滑膜炎を伴う慢性末梢性リウマチ様症状を呈し日常生活に困難を伴う.
- 主な血液所見はリンパ球減少および血小板減少である.
- 近年の死亡例では呼吸器不全, 心代償不全, 髄膜脳炎, 劇症肝炎, 腎不全等が報告されている.



発疹像

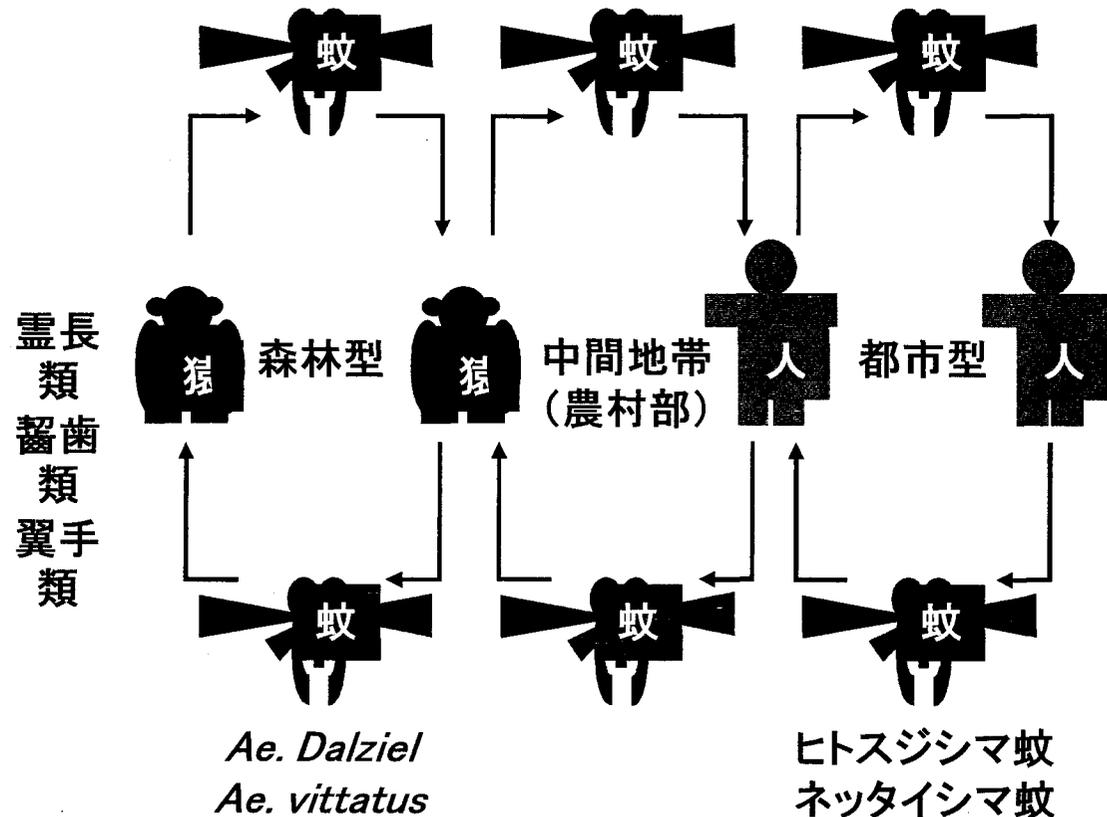
Hochedez *et al.* EID 12(10), 2006.



関節炎の後遺症像

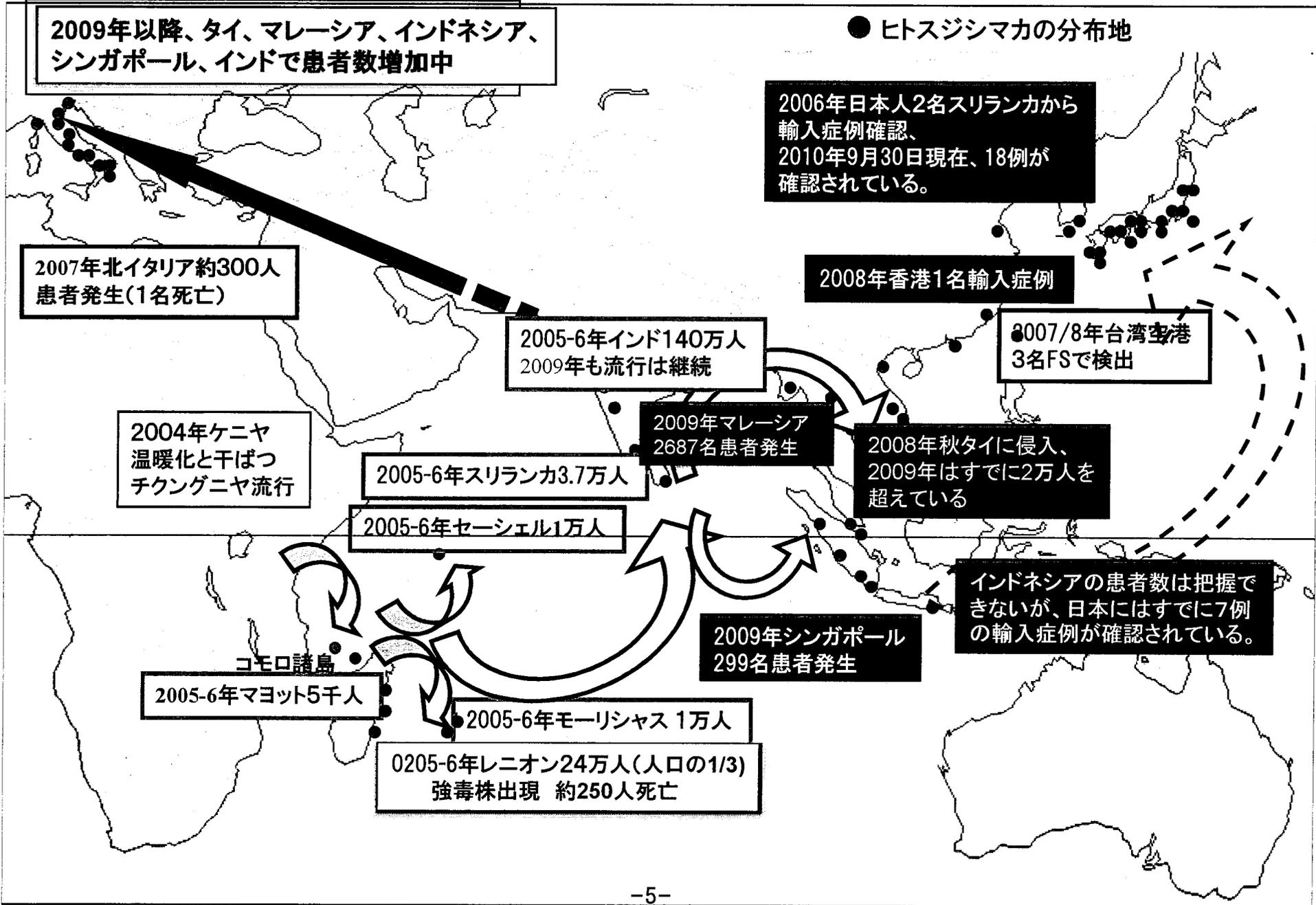
チクングニアウイルスの感染環

主な媒介蚊



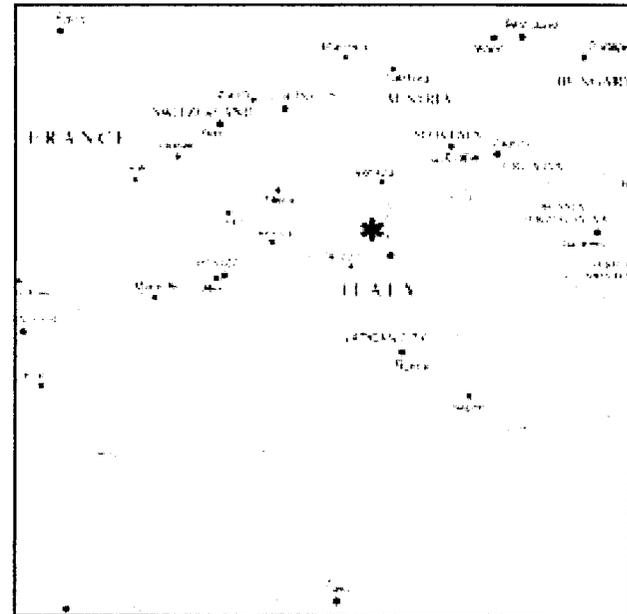
- 急性期のヒトにおけるウイルス血症は非常に高く、吸血した蚊がチクングニアウイルスに感染する可能性は極めて高い。したがって日本を含む温帯地域においても輸入症例からチクングニア熱が流行する可能性がある。

チクングニヤ熱の流行状況と媒介蚊としてのヒトスジシマカ



2007年、チクングニヤ熱がイタリアで流行

イタリア北部でチクングニヤ熱が流行した。イタリア国内の媒介蚊は、わが国にも生息するヒトスジシマカである。イタリア国内には、インドからの輸入感染症患者により持ち込まれた。250人を超える患者が報告された。



主な流行国におけるチクングニヤ熱患者の報告数の推移
(千人)

流行国	2006年	2007年	2008年	2009年
インド	1400	60	70	68.2
スリランカ	1	37.6	18	1
マレーシア	0.2	0.1	4.3	5.4
インドネシア	0.5	1	10	0.3
タイ	0	0	2	47.7
シンガポール	0	0	0.6	0.3
イタリア	0	0.3	0	0

日本の輸入チクングニヤ熱症例情報

症例数	渡航先	発病年月	都道府県(確認地)
1	スリランカ	2006年11月	東京都
2	スリランカ	2006年12月	新潟県
3	インド	2008年8月	大阪府
4	マレーシア	2009年1月	兵庫県
5	インドネシア	2008年9月	東京都
6	インドネシア	2009年3月	東京都
7*	インド	2008年10月	東京都
8	インドネシア	2009年5月	東京都
9	インドネシア	2009年5月	千葉県
10	インドネシア	2009年5月	東京都
11*	マレーシア	2009年5月	東京都
12	インド	2009年7月	長崎県
13	タイ	2009年9月	東京都
14	インドネシア	2009年9月	東京都
15	ミャンマー	2009年12月	神奈川県
16	インドネシア	2010年3月	京都府
17	インドネシア	2010年2月	東京都
18	インドネシア	2010年9月	東京都